

災害時要援護者支援プロトタイプシステムの開発

～音声対話型AIエージェントの災害時利用への応用～

SSE01-08

株式会社NTTドコモ 平重克樹

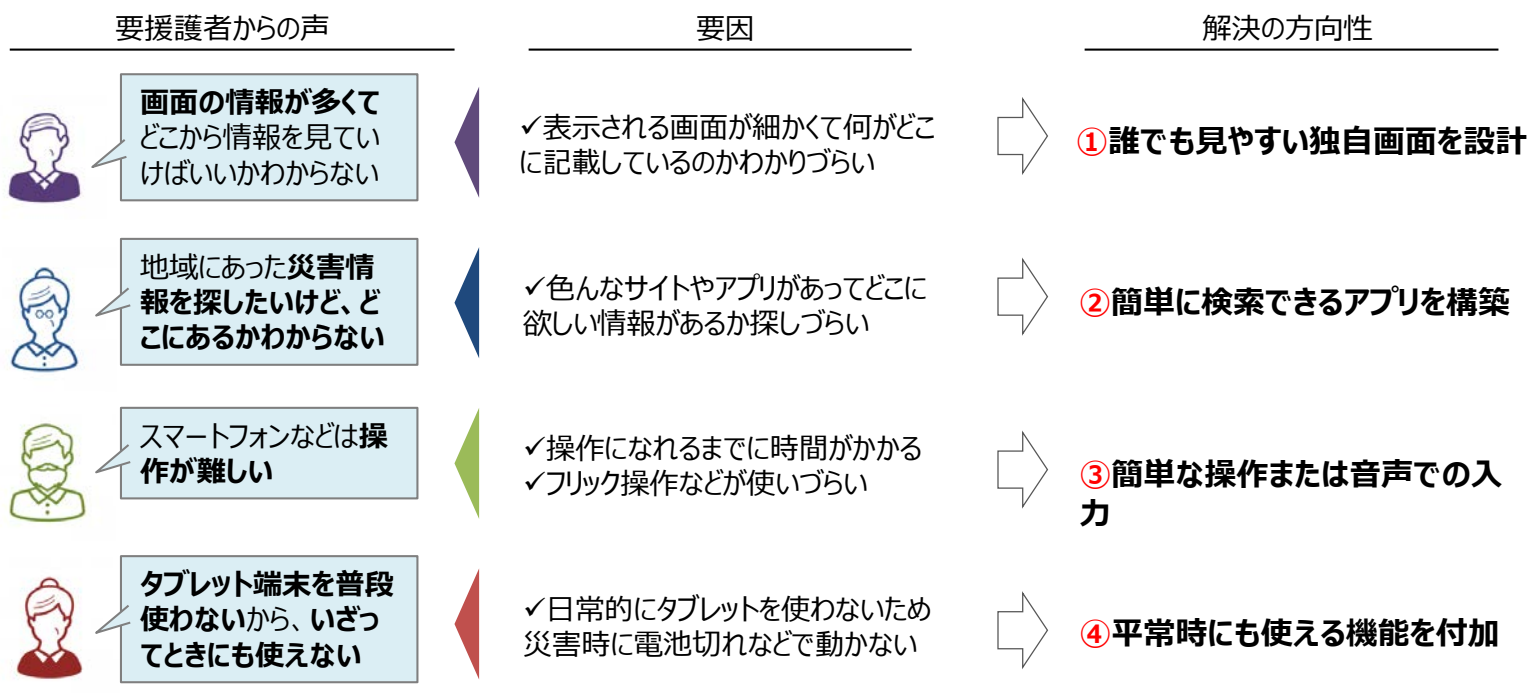
災害時要援護者対応の問題点

- ◆「災害時要援護者」に対する、「災害対策」は重要な行政課題の一つ
- ◆ 災害時要援護者の孤立緩和も地方自治体にとっての課題
 - ① 平常時における要援護者支援
 - ② 発災直後の避難誘導及び安否確認
 - ③ 避難後の生活支援
 ⇒②について、地方行政では、人的リソースも限られるため、緊急性が求められる災害時に要援護者の支援をしきれない

「情報伝達システム」による解決

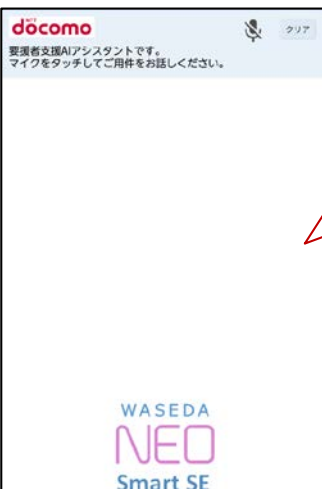
- 【提供システムの方向性】
災害発生時、要援護者に対して迅速かつ確実な情報伝達が可能な防災情報システムの提案と開発
- ◆ ポイント
 - ① 「発災時の機能」と「平常時の機能」を同時に備えることで、情報端末の働状態維持と要援護者の端末操作の習熟を図る
 - ② 提案システムが対象とする主たる災害は風水害であり、対象者は、災害時要援護者のうち自力避難が可能な要援護者

要援護者向け情報伝達のしくみの必要性



「4つの方針を実現するしくみ」を構築し、要援護者の自力避難を促すシステムを提案

実装例



※タブレット画面 (チャット形式で表示)

- 【平常時機能】
- ✓一般的な日常情報（電車運行状況など）の検索
 - ✓自治体から提供されるローカルな情報（イベントなど）の検索
- 【災害時機能】
- ✓避難所や危険区域などの地域に特化した災害関連情報を検索
 - ✓自治体から提供されるローカルな天候情報を検索

評価・考察

- ✓本プロトタイプシステムでは、①～④の特徴を考慮した設計で実装し、正常に動作することが確認できた。
- ✓本プロトタイプシステムの今後の課題としては、以下がある。
 - A) インタフェースのカスタム化
 - B) ネットワークの耐障害性強化
 - C) 機能の高度化及び充実

- 災害発生時、要援護者に対して迅速かつ確実な情報伝達を可能にする防災情報システムを提案し、そのプロトタイプを開発した
- 提案システムを利用することで、要援護者の孤立緩和と災害対策の両方を実現可能

タイトル

所属

名前

メールアドレス(任意)

開発における問題点

ここでは、今回の修了制作で解決した開発における課題・問題点について述べる。例えば「XXシステム開発の際に、セキュリティ上の攻撃とそれに対する対策を系統的、網羅的に分析する必要がある」といったもの。「YYアプリに機能Aがなかった」等アプリケーション自体の問題点ではないことに注意する。

手法・ツールの適用による解決

ここでは、左で挙げた問題について、どのような手法・ツールの適用や提案によって解決したかを述べる。手法・ツールの名前を出すだけでなく、性質を明示し問題との対応がわかるようにする。例えば「達成目標を分析してシステムの構成要素を導出する系統的な方法を定めた要求分析手法KAOSを用いて・・・」といった感じ。

ポスターの構成

上の概要のタイトルも必要であれば変更してください。人によっては「適用」ではなく「拡張」「提案」「連携」等となると思います。ある程度であればマスタの方の大きさを変えていただいても構いません。

概要より下の部分の構成(スペースの分割等)についてはお任せします。フタは残して下さい。

このフォーマットはA3になっていますが、実際にはポスターA0印刷、配布用A4印刷を行います。文字の大きさは最低13pt程度としてください。

注意点

Webにてアクセス制限なく公開するものであることに留意して下さい。

審査会での発表とは異なり、外部の方々・TopSEのツール・手法を知らない方々も対象となるため、

- ・モデリング方針
- ・ツールの設定

等の詳細よりも、

- ・その手法・ツールは何ができるか
- ・端的には、その図は何を表しており、その図を使って何をしたのか

といったことを概念的に説明することとなります。

提出

LMSから提出して下さい。

最終的には3月の修了式等のイベントにて、(上司の方々や外部の来賓にも)掲示します。

- ・こちらで印刷時の様子を見て多少レイアウト等調整を行う可能性があります。
- ・印刷はNIIで(事務局が)行います。